

# 伝心伝承

当コーナーでは会長、県会長経験者の方々に「中央海」という大海原での羅針盤たる助言・苦言をいただきます。4回目は第22期会長松本啓OBです。



—松本OBが会長の時のスローガンとそれに対する想いを教えてください。

スローガンは「イノベーション」というのをやりました。時代はバブルが弾けてちょっと経った時期だったし、色んな意味で今までの価値観とかが変わってると感じた頃でした。古いものでいいものもあるんだけど、気持の問題であるとか行動パターンであるとかを変えていかなければならないと自分自身がおもっていました。青年経営者たるもの意識改革をしてかからないと厳しい時代を生きていけなくなると感じましたので、1年間の基本的理念として掲げてやっていきたいとおもいました。

—中央会に入会されてプラスになったことを教えてください。

先輩・後輩色んな人と知り合いになれたこと、それが一番でしょうね。ひとつの会の中で「同じ釜の飯を食った仲」のような付き合いを今でもしているってことが自分にとっては本当にありがたいことです。

—中央会のボランティア活動についてどのようにお考えでしょうか？

例えばトライアスロンのことですね。基本的に地域の活性化に関わっていくことは大事なことです。人的な貢献や責任の所在などに若干の問題もあるようにおもいます。細かくみていくと「ここのまでかなあ」となってしまう部分もありますが、やっぱり大事なことはあるし、ある程度参加していくべきだとも思います。

—最後に現役員へメッセージをお願いします。

今は僕らの頃と比べて経済情勢が非常に厳しく、そういう中での中央会の活動は大変だとも思います。特に役員の人などは。だからこそ、「まずは企業人であれ」ということをしっかり持って欲しいです。そういう意味では、忙しくても時間を作って会の活動に出ていくということは自分のトレーニングにもなるし、それによって得るものもすごく大きいとおもいます。だから、多少無理をしてでもできるだけ会の行事に参加してください。何でも中途半端でなく、一生懸命やって欲しいとおもいます。中央会には卒会がありますが、これがまたええだがない。限られた期間の中で自分を燃焼させて、ひとつの目標に対してみんながベクトルを合わせて一生懸命やったという達成感を一度は味わってほしいです。

(広報：木下立己)

## 言わしてごしない 其の四

### 燃えよ！エンケン ～脂肪遊戯～

大山高原マラソン	5キロ	………	完走 (28分27秒)
隠岐マラソン	20キロ	………	完走 (51分33秒)
読売ハーフマラソン	21.0957キロ	余裕で	完走予定
ホノルルマラソン	42.195キロ	………	驚異的世界新記録で完走予定

上記は私のマラソン履歴ならびに予定です。旧知の先輩諸氏の多くは「なしてあの遠藤が？」とおもわれるに違いありません。(朝日町のネオンが灯る頃の姿しか想像できない!?)

そもそも、私がこうなってしまったのも、昨年の暮れに人間ドックの検診で引っかかり、「生活習慣病です。このままだとインシュリンを打つ羽目になりますよ。治すなら今です!」と医者に脅され、「ダイエツト・禁酒・禁煙」を勧められからです。2月13日に一大決心をして始めたダイエツトは栄養士の先生の指導を受けて1日の摂取カロリーを3食きちんと摂って1600キロカロリーに抑え、加えて1週間に5日間45分間のウォーキング。またこの日を境に酒も一切口にすることはありませんでした。3ヶ月が経った5月中旬には82キロあった体重が67キロになり、血糖値・中性脂肪・総コレステロール・ガンマGTP、GPT等が正常数値以下に。このことに気をよくした私は禁煙にも挑戦しました。リバンドに注意するために通ったトレーニングジムでふと「自分にはどれくらい体力がついたんだろう?」とおもい、たまたま目にした「富士登山ツアー募集」の新聞広告に乗り、7月26～28日の行程で登山に成功してしまいました。あとは何かに引きずられるかのように健康フェチ街道をばく進、現在に至るわけです。

青年中央会の現役員の中にはダイエツト前の私の体型と同じ方がチラホラおられます。痩せたから言うわけではないですが、私たちはまだまだリタイヤするわけにはいきません。生活習慣病から合併症を起こして昏倒することは是非とも避けたいところです。この文章を読まれて、おもしろいところのある会員の方はいち早く治療されることをお勧めします。健康で元気に仕事ができるよう頑張りましょう!

(国際交流：遠藤健司)

### 11月例会案内

と き：平成15年11月17日(月) 18:30～  
ところ：ホテルサンルート米子  
講 師：日野病院組合日野病院病院長 堀江 裕(ほりえ・ゆたか)氏  
演 題：「あなたの健康・わたしの健康」  
※オープン例会となっております。OB会員をはじめ、ご家族・従業員様等お誘い合わせのうえふるってご参加ください。

問い合わせ先 花園委員長 090-8995-3034

※この紙は再生紙を使用しています。 ※環境に配慮した「大豆油インキ」を使用しています。

### コピーをして名簿にお貼り下さい

(国際交流)

**角 田 敏 宏** O型  
株式会社オーク建設 営業次長  
建設業  
〒683-0805 米子市西福原4-11-3  
TEL 33-7271 FAX 22-8157

H15.10入会  
(推薦名) 松浦(亮) 米子市西三柳4572-30  
野口(学) 〒683-0853 S 46.3.22 TEL.24-3376

(コメント) この度、10月より入会させていただくことになりました角田敏宏と申します。西福原にありまます株式会社オーク建設に勤めております。中央会の活動に積極的に参加し、より多くの方との交流を深め、たくさんの知識を得、自分自身を磨いていきたいとおもっております。まだまだ若輩ものではございますが、諸先輩方のご指導のほど、どうかよろしくお願ひいたします。

**御成婚**  
宮崎大介会員(地域V) 5月20日(火) 出雲大社分院にて  
木下立己会員(広報) 10月12日(日) 東光園にて  
おめでとうございます。未永くお幸せに!

**御誕生**  
辻 拓哉会員(総務) 9月6日(土) 第二子 辻太(そうた)くん  
渡辺一徳会員(経営) 10月3日(金) 第一子 隼子(とうご)ちゃん  
湯原俊二会員(総務) 10月7日(火) 第一子 和憲(かずのり)くん  
おめでとうございます。健やかに成長されますように!

### 吾輩は俺のアブラウリである

最近よく母校に野球を見に行くようになった。この春、長男が入部し後輩となったからだ。卒業して26年、ほとんど足が向かなかったが、行きだすとなかなか面白い。私は野球は予測のゲームだともおもっている。(例えば打者なら、次の球がストレートなのか変化球なのかを予測しながら打席に入る。)だから、常に「次はカーブだ!」「スクイズするぞ!」とかおもいながら見ている。当たれば当然の如く自己満足、はずれば隣で見ている人を捕まえていっばしの解説者ぶってそのプレーを批評する始末である。

家ではいつも子供たちと会話が弾む。話題の中心はやはり野球だ。練習・試合・チームメイト・プロ野球や大リーグのことなど話が尽きない。これも野球のおかげである。

先月、4年間汗と土にまみれた大学の練習を見にわざわざ東京まで行ってきた。そこには昔と変わらぬひたむきな選手の姿があった。その姿に「おまえも頑張れよ。」と勇気づけられてかえってきた。(演)

### 11月役員会報告

11月定例役員会が平成15年11月4日(火)、米子食品会館において開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。  
(1) 11、12月忘年例会開催の件  
(2) 県経営研修会の件  
(3) その他  
※なお、詳細については委員長までご参照ください。

## 伝心伝承

支所長	主 査	合 議	区 分
自立	3本の柱	会の自立・人としての自立・地方の自立	2008/11/17 No.1901

# Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 浜田一哉 編集責任者 野嶋 功 印刷所 東京印刷社

## 10月例会報告

平成15年10月16日(木)、ホテルサンルート米子において地域ビジョン委員会による10月例会が行なわれた。

冒頭、浜田会長より衆院選についての西部青年中央会の対応方針、OB交流会への参加依頼等の挨拶があった。引き続き新入会員角田敏宏氏へのバッジ授与式が行なわれた。委員長タイムでは福田総務委員長が「郡部からみた町村合併」と題し、自ら住まうH南町を題材に、町の現況や町村合併に対する考え等を述べ、郡部における合併の深刻さを考えさせられた。

今月は講師に米子市在住の童話作家玉井詞(たまい・つかさ)氏をお招きして「夢の途中」という演題で講演が行われた。



### この世界に入っていきときの苦勞話

絵への憧れは高校時代よりあったが、地方から都会へ出て行って文化のギャップを強く感じ、また都会人のセンスのすばらしさには太刀打ちできないとおもいより自らのフィールドをペン画の世界へと求めた。

### 子供の頃の思い出

自らの創作に関するバックボーンになっているものは、幼少期の風景や食べ物などの味などであり、今でも鮮明に憶えている。

### 苦勞話あれこれ

1980年に大谷記念美術館絵本原画展で出品作3点のうち2点が入賞し、そのうち1点は美術館賞を受賞。「これで絵本作家になれる。」と喜んだが、出版社からは「出来はいいがこういう(=ペン画のような)モノクロのモノは売れない。」と言われた。いいモノと売れるモノはイコールでないことにショックを受けたが、それでも自費出版しようとして処女作「ギギギ」を製作したところ縁あって東京の出版社から発刊することができた。人との出会いの大切さを痛感した。

### 私の夢=夢の途中

世界のひとりでも多くの人たちに私の絵本を読んでもらいたい。



会 長

講演の途中、先生が演出・美術に携わられた「まんが日本昔ばなし」より3作が上映され、1本の製作に約半年間もかかるという舞台裏やギャラにまつわる裏話に驚かされた。筆者もよく見ていたのでとても懐かしく、童心に戻ってしまったが会員の皆様にもそう感じた方は少なくないはず……。

本文にもあるように、いいモノと売れるモノはイコールでないことにショックを受けられた先生ではあるが、講演中の「10人が10人にいいと言われなくとも、10人のうち1人でも気に入ってもらえればいい。」という言葉にはクリエイター魂が凝縮されているようで、印象的であった。

(広報：小川昌史)

## 米子市政討論会に参加



米子市政討論会  
市議と語ろう  
米子の明日

去る9月28日(日)、中海テレビ放送にて収録・放映された「シリーズ市政討論会 ～市議と語ろう米子の明日～」に、当会より伊藤副会長・後藤広報委員長・筆者の3名が参加(出演)してきた。今回が2度目の放映となるこの企画、回毎に異なるテーマを定め、コーディネーターを中心として市議員(8名前後)と一般市民(20名弱)が官・民それぞれの立場から討議するというもの。今回のテーマは「教育」。まず、「学校週5日制の導入」がいかなる影響を及ぼしているかという視点に始まり、「学校給食」の問題、「老朽化の進む校舎」の問題、さらには「児童・生徒の学力低下」の問題等約2時間に渡り、かなりHOTな論議が交わされた。

ご覧になった方はどういう感想をお持ちのことだろうか?実は、冒頭の「理想の教育とは?」の質問に各自が答える、というイントロ以外は全てノーリハ。もちろん、各出演者が何を発言するかというの事前アンケートに答えた以外は全てシナリオなしという、私もドシロウトにとっては結構ドキドキものの番組。途中「何の話だ?」ともおもえるような展開もこういった「純生」ならではのところか。個人的には大変有意義な時間を過ごせたようにおもう。

この企画、大体1ヶ月に1回の収録・放映予定で約半年間継続されるとのこと。今後予定されているテーマは「産業経済、観光振興」「男女共同参画」「環境問題」「市町村合併と新しい米子市像」など。「その件については出演して一言物申す!」という方、是非応募してみられてはいかがですか?!

(政治行政：堀江則夫)

ひゅうめいん 人間のあくなき可能性

発行参百回記念

2013.11 300号

伊達男

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 一休謙太郎 編集責任者 平成15年度広報委員会 印刷所 東京印刷株式会社

「死闘、まちづくり」

2013年11月某日。

「おいおい。この緑被率じゃ、相変わらず財源オーバーだぞ。どこにそんな財源があるとおもってんだよ。」「しょうがねえだろ。これでもコンプラン（総合計画）のベンチマーク（施策指標）の半分の達成率なんだぞ。」「だから言ったろう。確かにバリアフリー率の達成度を上げていくのは大事だけど、これじゃ夏は熱射病で歩道を歩くのも命がけじゃないか。」「それじゃどこからか財源もってこいよ。それにしたってよくもまあこれだけいろんな要望の中で、市はこれまで予算編成ができたもんだなあ。」

すでに1年6ヶ月も続いている「米子わがまちづくりクラブ」の主催する公聴会は早300回を数えようとしている。2002年の都市計画法改正により、都市計画の法体系に穴をあけた住民提案制度は、4年前にさらに進化した形で市との協議により財源の裏打ちが取れ、かつ自治体との政策整合性が法令上担保されれば自ら事業計画を市に勧告できることとなった。そこに目を付けた西部中小企業青年中央会の有志は、政治行政委員会を中心に「米子わがまちづくりクラブ」を組織。そのメンバーは本業そこここ(1)に、米子のまちづくりに精を出し、今では完全に市を取り込んで市の政策形成の一角を担う存在となっている。

3年前に策定された市のコンプラン（総合計画）は徹底した住民参加による行政を実現するため、このまちづくりの住民勧告制度を取り入れたが、その前提として、コンプラン上の39のベンチマーク（施策指標）の9割以上の達成と事業実施のための財源調達の内容となった「近隣地区プラン」の策定を条件とする条例を制定している。市民に施策形成の重要部分を委ねた市は極めて大きな政策の転換を図ったわけだが、市民からすれば今までどおりの陳情というわけにはいかなくなった。この制度をいち早く活用した米子下町B地区では、地元企業・住民が一丸となって、ベンチマークを達成した近隣地区プラン策定にこぎつけるとともに、ほぼ市と折半の資金協力により財源調達し、市から十数億円の予算を引き出しているのだ。

「それにしても、「5分で歩いていけるオープンスペース比率」というのは厳しいベンチマークだよなあ。そもそもこのベンチマークに異を唱えるというのはどうだい。」「だめだめ。下町B地区で一度トライしたらいいけど市に一蹴されたらしど。何しろ公聴会500回のコンプラン様だからな。」「おいおい。無駄口ばかり言ってるなよ。もう23時だぜ。2014年度事業要求期限は今年なんだぞ。」

今夜も近隣地区プランをめぐる議論は朝までつづく。  
(米子市：山野 謙)



平成15年度中小企業団体経済交流発展事業参加報告 ~その1~

「①鳥取県の中小企業の青年経営者ならびに管理者と韓国江原道（カンウォンド）の企業経営者等が人的・経済的交流を通じ民間ベースでの環日本海交流を行うことにより新たなビジネスチャンスの拡大を模索する、②具体的な経済交流の推進によって両国企業同士の信頼関係の構築を図る」ことを目的とし、我々県青年中央会有志21名は9月25日から27日までの3日間訪韓してきました。3ヶ年計画の3年目、締めくくりに年いふさわしく、JETRO [日本貿易振興機構] の協力も得て韓国江原道の企業2社との商談視察を実施しました。

出発当日、JETRO黒住氏の約1時間半にわたる事前研修（輸出入に関する実務および商習慣の違い）を受けた我々は米子空港より韓国・仁川（インチョン）空港へ。到着後の団結式を経て、翌日の企業視察地でもある原州（ウォンジュ）市へバスで3時間半かけて移動しました。

翌26日。10時半に「ユソソ製麺」を訪れ、商談および工場視察を行いました。冷麺・ソバ・素麺などの乾麺の製造工程を視察したあと商談を開始。午後からは「キムチマウル」を訪問。6名が工場内を視察させてもらい、間近にキムチの仕込み等を見学しました。日本の生協とも納品契約を結んでいるということもあって品質管理等にはとても神経を使っておられるようでした。

商談終了後、ソウルへ移動。到着後すぐに交流会を実施。深夜まで今回のミッションの成果と反省について語り合い、最後に30周年に向け青年中央会をさらに飛躍させることを全員で誓い合い、今回の事業の締めくくりとしました。

今回の事業を終え、現状では具体的な輸入レベルの話まで進みませんでした。しかしながら、韓国および江原道の経済状況について理解を深めることができたことは今後我々が韓国と経済交流を行うにあたり大変参考になったのではないかとおもいます。また、参加した各地区会員が「鳥取県はひとつである」という共通認識を強く持ったことは県青年中央会の将来にとって必ずや大きなプラスとなることでしょう。

最後に、今回の事業に協力いただきました中央会事務局をはじめとする関係各団体、地区会長および県出向の皆様方に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

P.S. 先日の台風のお見舞いとして訪問先2社に義援金を渡しました。  
(県会長：市位清明)



10月度各委員会報告書

情報メディア委員会  
平成15年10月10日(金) 於：(株)インサイト 出席者/5名  
内容/内部講師によるパソコン実習  
講師：井塚副委員長

DTP（＝デスクトップパブリッシングの略。パソコン上で印刷物を作ること）ソフトのひとつであるイラストレーターを用いた実習となった。イラストレーターは各ツールを使って「文字・イラスト・図形」などを作成したり、写真の配置もしたりできるソフトである。井塚会員の実際作成したチラシを参考に、地図の作り方やグラデーションの作成などを学んだ会員は個々に中央会のマーク作成に着手。しかし、自由に描けるソフトであるがゆえにツールの使い方も多くあり、何から手をつけてよいかわからないというのが現状であった。

政治行政委員会  
平成15年10月6日(月) 於：ホールサムインかいけ 出席者/11名  
内容/「観光」問題についての討議

県西部の観光について、「行政は集客アップにどう関わるべきか？どうすれば魅力ある観光地になるのか？」を中心に話し合った。主な意見として「米子の観光と言えば皆生。周辺地域としては境港や大山など。米子自体は目立ったことがない。米子として、もっと何か大きなテーマがないか？」「中途半端なものを作っても…。自然を活かしたものが欲しい。」「目的は千差万別だが、なんでもありでは疲れるのではないか？」等々の意見があった。

国際交流委員会  
平成15年10月2日(木) 於：it'sバー&グリル 出席者/11名  
内容/バンコク事前調査隊スケジュール確認等

1. バンコク事前調査隊スケジュールの件  
10月8～12日の日程で、松浦・釜田・増井（オブザーバー）の各会員で出発予定。  
企業訪問先は、バンコク市内のリ・エール・インターナショナル（コンテナハウス）を見学予定。  
2. その他（バンコク企業視察のスケジュールおよび参加者決定）  
11月7～10日の日程でリ・エール・インターナショナルおよび市内の大型ホームセンターを視察予定。現在の参加予定者は6名。

経営委員会  
平成15年10月8日(木) 於：ホールサムインかいけ 出席者/9名  
内容/11月担当例会打ち合わせ等

オープン例会化にともなうOB会員等への連絡方法の確認や当日までの準備確認と当日の役割分担を決定。

地域ビジョン委員会  
平成15年9月7日(火) 於：米子食品会館 出席者/10名  
内容/10月担当例会打ち合わせ  
外部講師講演  
講師：長田吉太郎氏（有限会社長田茶店代表取締役社長）

演題：地域の夢

「城下町を舞台に海運業が発達し、商都米子を形成した。その運河が交流の大動脈だったころ町が大いに栄え、風情ある町並みが残った。その町並みを活かした地域の活性化策を図った。町づくりに箱物は必要ない。人がほっとする路地裏が必要だ。このごろ力を入れているのは中海七珍や外江七珍など、その地でしか味わえない食べ物（＝食文化）を活かした町づくりだ。食の会には150人くらいすぐ集る。」等々パワフルに講演され、1時間では時間が足りなかった。

広報委員会  
平成15年10月4日(土) 於：大連 出席者/12名  
内容/ハンサム11月号編集

委員会ディスカッション「歌の持ち合わせる功罪」  
SMA Pの歌う「世界に一つだけの花」を題材にディスカッションを行った。①この歌の表現する価値観・人生観について、②我が子への教育・子育てについて、③国家・人種・宗教間紛争について、を討議した。40分間という短い時間ではあったが、それぞれの価値観・人生観の一部を理解することができた。ただ、「言葉」「文章」はそのちょっとした表現・使い方の違いにより、個々の捉え方が大きく変わってしまうという一面が垣間見られ、広報委員会として今後「言葉」の使い方には十分留意する必要性があると感じ、そして「文章」の持つ大きな力を実感することができた。

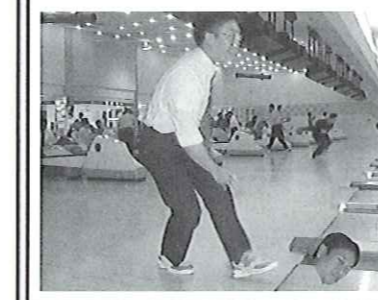
総務委員会  
平成15年10月3日(金) 於：ホールサムインかいけ 出席者/11名  
内容/OB交流会打ち合わせ等

協議内容  
①会場の設営（机、いす、ステージ位置等の概要）、②食材の選別・主な発注先、③備品等の貸出先またはお願ひする人、④備品の必要数、⑤備品の発注先、⑥買出し人員等、⑦アトラクションの選別、⑧お手伝いをお願いする会員の確認と呼びかけ  
なお、10月22日に最終打ち合わせを行う。

30周年記念事業委員会  
平成15年10月7日(火) 於：海潮園 出席者/6名  
内容/周年事業企画ならびに基調講演講師選定についての打ち合わせ

各委員から自分が呼びたい講師を呼びたい理由と合わせて発表してもらった。  
政治家、事業主、国際学者、ジャーナリストなど多種多様な方々が候補に上がり、今後講演内容やスケジュールおよび予算等々の観点から人選されることとなった。周年事業についての意見として「県西部在住の外国人を招いて、日本人あるいは鳥取県人について語ってもらう」「30周年を契機に新しい企画を立ち上げられれば（有形無形に係わらず）」「今後の日本に大切なのは人材育成ではないか」などの忌憚のない意見が交わされた。

青経連親睦会に参加して



青経連親睦会に初めて参加し、他の団体の方々との交流ができ、楽しい時間を作ることができました。浜田会長の言葉に「ひとりでも多くの交流を持って、いい奴と出会ったなとおもえる交流会になって欲しい。」との言葉がありましたが、本当にいい交流の機会が持てたとおもいました。  
ボウリング大会ではさすが戦う集団・中央会。幹事団体にもかかわらず、団体戦・個人戦でも優勝をかささうという結果に終わりました。（個人戦優勝者は情報メディア委員会の中原さん）。個人的に印象に残ったのは、門脇直前会長。第1ゲームのすばらしいスコアにそのまま優勝かなとおもっていたところ、第2ゲームでくずれられたらしく、ゲーム終了時「あああ〜。」とボウリング場にこだまする声が秋の訪れを…。  
懇親会に会場を移してからも終始なごやかな雰囲気の中、今までとは違う考え方や情報交換を得ることができ、とても有意義な機会になりました。

(広報：岡本重雄)

広報委員長よりお願い

年間発行分のうち1/3を発行した計算になります。会員諸氏の目に今年のハンサムはどう映っていますでしょうか？紙面作成の難しさを痛感するのは、話し言葉を「正確に」伝えることです。その場の雰囲気・前後の流れ・口調等は活字で表現しにくいので、発言者の真意をキチンと届けられているのかいささか不安になります。  
仮に「あれ？」という内容が載ったとしても「彼の人柄ならこう言いたかったはずだ」と汲み取ってもらい、自らと発言者との心の距離感を計るバロメーターにしていれば幸いです。